

滞日外国人と性の健康

滞日外国人の働く環境、医療の保障、HIV 感染

多くの滞日外国人は、労働者が不足する日本の産業の底辺を支えています。

日本社会の快適化を影で支えている滞日外国人労働者は、
自分の健康をどのように考えているのでしょうか？

医療を受ける保障はあるのでしょうか？

異なるサービスを提供している市民団体に滞日外国人を支援している経験から
滞日外国人をとりまく現状と日本社会の課題そして可能性を報告いたします。

12月19日（土）4:30-6:30pm

東京YWCA 303号室・入場無料

★滞日外国人の働く状況と健康の意識

レニー・トレンティーノ（KALAKASAN女性プロジェクトコーディネーター）

★人身売買被害者の医療保障

大津恵子（JNATIP共同代表、女性の家HELP元ディレクター）

★市民団体にできること

青木理恵子（NPO法人CHARM事務局長）

会場アクセス：東京YWCA 303号室

千代田区神田駿河台1-8-11 Tel.03-3293-5421

<http://www.tokyo.ywca.or.jp/map/kanda.html>

JR・地下鉄お茶の水駅徒歩4分

主催：財団法人エイズ予防財団

協力：東京YWCA女性と少女の人権事業

人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）

申込み：不要 直接会場にお越しください

問い合わせ：NPO法人CHARM Tel/Fax(06)6354-5902 office@charmjapan.com

この報告会は「個別施策層（とくに性風俗に係る人々・移住労働者）のHIV感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究（研究代表者 東優子）」成果発表会として開催されます。